

しょうらいのゆめ

# 将来の夢

future dream



岩井第一小学校 3年  
山崎 鈴桜くん

ぼくのしょうらいのゆめは、家をたてるし事をする事です。

それは、工作で家を作ったことがあり、人によるこんでもらえる家をたてたいと思つたからです。そして、おじいさんやおばあさんにあぶくない家をたてたいからです。

ぼくは、ペットもかえる家をたてます。けしきがいい所にたてたいです。ふじ山やスカイツリーも見える所にたてたいです。

たくさんの人が、気持ちよく住める家をたて、みんなによるこんでほしいです。



# ばいばい

## 短歌

長き門曲がりし我が家庭先に金木犀の香り漂う

【評】 自分の屋敷の景観を詠んでいるだけだが、そこに生活して来た作者の満足感が出ている。

長き門、金木犀が効果的。

陰追いて庭のあら草取りゆけば血をはくごとくほととぎす鳴く

【評】 上の句の雑草を取っている状態の寂に対して突然のホトトギスの鳴き声。何かの想念が湧いたに違いない。

「誰呑むの」問えば妻にと地酒買う照れる旅友房総巡り

朝あけのデデッポッポー山鳩の温き濁声里山を被う

汗流し自然と向き合い草引けば充実感が満ちあふれきぬ

勇壮な武者行列に陣太鼓台地に響く将門まつり

秋嵐窓越しに見し黍畑ドミノのごとく倒れ伏したり

復員の父に喰わせしめだか取り思い出遠きわれまだ六歳

老妻は吾に構わず一心不乱草花の手入れで見事な花が

青空にヒコーキの音見上げれば金木犀の繁りの薫り

## 俳句

かたまりてひそかに咲くや枇杷の花

【評】 黄色い枇杷の実によく見かけるが、初冬の頃ひそかに咲く花は人に気づかれず淋しい花です。

枇杷の花が咲くと今年も残り少くなる。

雑踏の一人ひとりの年の暮

まわり路すれば木犀薫りけり

しあわせが胸にふくらむ冬の宿

菊花展菊のころもの狸佇つ

雲流れ千曲の旧家吊し柿

秋の夜は本傍に眠りけり

熟柿に群がる鳥の名を知らず

櫓田に雀降りくる一羽二羽

立冬や箒の先も薄くなり

残照に鈴成りの柿色極む

みちばたの色づく柚子を見上げけり

- |   |   |   |   |   |    |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|----|---|---|---|---|
| 長 | 矢 | 沓 | 長 | 辺 | 矢  | 岩 | 長 | 借 | 岩 |
| 山 | 掛 | 掛 | 谷 | 田 | 作  | 井 | 須 | 宿 | 井 |
| 須 | 作 | 掛 | 谷 | 田 | 作  | 井 | 須 | 宿 | 井 |
| 平 | 中 | 米 | 木 | 滝 | 押  | 茂 | 林 | 吉 | 中 |
| 田 | 山 | 島 | 村 | 本 | 川  | 呂 | き | 沢 | 川 |
| と | み | 欣 | 民 | 和 | まつ | 忠 | よ | と | 達 |
| み | ね | 司 | 子 | 子 | え  | 男 | 子 | み | 男 |

生 子 鹿野谷 環

林 秀峰 選

長 須 藤井 ヤス

馬 立 古矢 美世

法師戸 大関 笑子

逆 井 鈴木 さわ

沓 掛 倉持 かよ子

長 谷 滝本 和子

長 須 倉持 春子

長 谷 荒井 勝

大 岩 井 楠原 久三

市 崎 市村 栄子

### 短歌・俳句の作品を募集します！

皆さんからの短歌や俳句を広く募集します。投稿されるかたは、住所・氏名・年齢・電話番号を記入し、毎月20日までに届くように各選者宛にお送りください。

選者 短歌 今井 清 〒306-0604 幸田新田435 ☎0297(35)2864  
俳句 林 秀峰 〒306-0631 岩井4633-1 ☎0297(35)1230